

東日本大震災津波の災害警備活動写真展を開催

東日本大震災津波発生から10年の1か月前である2月11日、釜石市民ホールで「いのち新聞」(遺族会名・主催、笹原留似子代表)、釜石大槌消防本部、釜石海上保安部、自衛隊釜石地域事務所、釜石市等とともに、震災警備活動写真等を展示した「いのちの写真展」を開催しました。

展示物は、警察、消防、海上保安庁、自衛隊の活動の様子が収められた写真約600枚のほか、警察の広域緊急援助隊活動服、海上保安庁の水難救助隊ウェットスーツ、遺族の思いをつづる新聞等約100点としました。また、屋外には、パトカーや自衛隊救急車等を展示しました。

このほか、震災身元不明者相談会の開催、被害者支援センター展示、ラグビーワールドカップ釜石開催関係展示等で盛り上げを図りました。

隣接するホールでは、警察を始めとする4機関の活動紹介動画や市長メッセージ、大槌高校復興研究会による震災当時の経験をイラストにまとめた「防災紙芝居」等を大スクリーンで上映しました。

来場者は500人以上に及び、各機関の職員とも言葉を交わしながら当時を振り返ったり、平素の訓練や活動状況について質問していました。パトカー等の車両展示も好評を博し、記念撮影が途切れませんでした。

来場者からは、「震災当時の困難な状況を思い出すと、救助や捜索を行った警察、消防のみなさんに感謝しかない」(70代女性)、「被災した記憶が薄れていたが、当時の活動を知る良い機会だった。今後、支援の恩を返せるように頑張りたい」(10代女性)などの声が聞かれました。

